



# まちコレポ

このレポートは、かりや夢ファンド（★印参照）の採択事業をまちづくりコーディネーター【愛称\*まちコ】が取材し、まとめました。

団体名 サブロー・ガルテン

事業名 俳優 松原実智子さんの朗読を聞く会 vol.2

## 事業の紹介



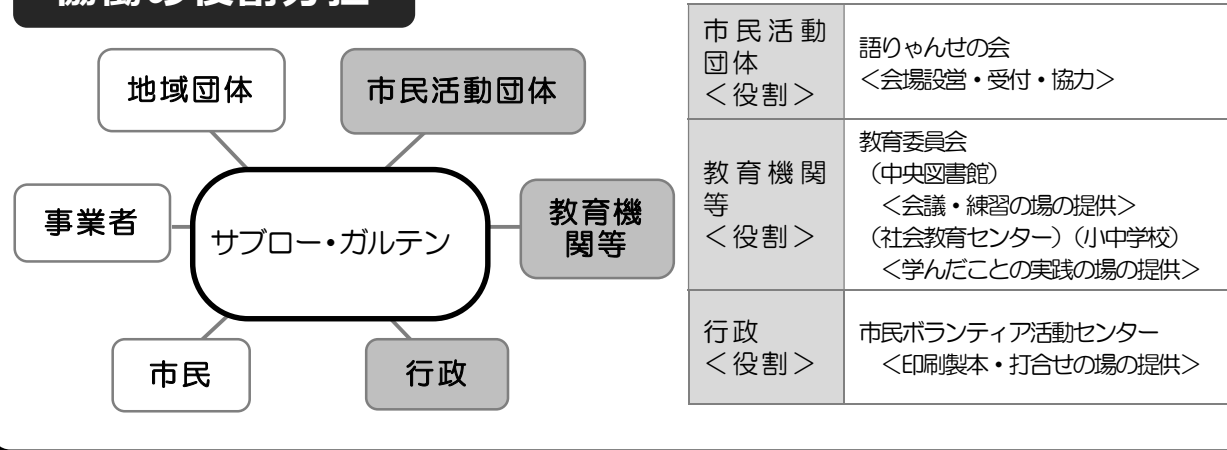
補助金額 5万円 / 総事業費 10万円

子どもや市民の方に向けて、市が顕彰する「森三郎童話」の語りと朗読の会を開催するにあたり、より作品世界を理解し、感動を与えることを願いとする。俳優 松原実智子さん（昭和8年生まれ。春日井市在住。元 CBC 放送劇団専属。未来座。NHK「中学生日記」出演）の朗読を聞いてレベルアップを図る。おはなしボランティアとともに向上を目指す。



「かりや夢ファンド補助金」は、「俳優 松原実智子さんの朗読を聞く会 vol.2」開催費用、主に講師謝礼、施設使用料、記録用備品の購入費（ボイスレコーダー、ポータブル DVD プレーヤー）、また開催後も学ぶことができるよう DVD 制作費として活用された。

## 協働の役割分担



## 取組みの流れ

### こんな想いでスタートしました

仲間同士で朗読の技術を磨き合うには限界がある。外部講師を呼ぶことで感想を共有でき、お互いにアドバイスをしやすくなる。

プロである松原実智子さんの朗読を聞くことで、発音・発声の仕方、聞き手に伝わる表現力について学び、おはなし会活動のスキルアップを図りたい。

文章の仕組みを考え、自然な流れで読むコツをつかんでほしい。方言の温もりと民話の骨太さを味わってほしい。

### こんな準備をして取り組みました

12月 会場を申請する。

1月 チラシ作り  
参加者募集

語りや朗読をしている方、おはなし会活動をしている方、聞きにきてくれる方を主な対象に、声掛けをし、参加者を募る。

2月 プログラム作成  
講師との打合せ  
タイムスケジュール作成

3月 朗読会実施

### こんな点を工夫しました

森三郎童話は「馬方八五郎」「お染」「狐の提燈」など、民話風の作品が多いため、よく似た世界観をもつ『かすがいむかしばなし』を用いて朗読会を開催。朗読の技法を学びやすいよう工夫した。

朗読の合間に参加者が感想を述べたり、質問する時間を設けたことにより、講師の松原実智子さん、主催のサブロー・ガルテン、参加の皆さんが三位一体となった、心温まる交流の場が形成された。

●「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んでいくために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。

★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です  
【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！>>



## こんな活動をしました！

日時： 2026年3月15日（日）13時00分～15時00分

場所： 刈谷市総合文化センター 405・406研修室

参加者： 29名（講師・関係者：2名、取材：6名を含む）

広報媒体： 語りや朗読、おはなし会活動をしている方、聞きに来てくれる方を主な対象に声掛けをし、参加者を募集した。



内容： 俳優 松原実智子さんを講師として招き、朗読会を開催した。どうしたらよりよい音声表現ができ、お話の世界を伝えられるかを図った。『かすがいむかしばなし』（文：旗 ひさし 昭和56年 春日井市発行）より、春日井弁の「十五の森」を含む4話の朗読を聞き、感想をシェアし、人に感動を与える伝え方について学んだ。また「方言」について指導を受け、参加された方と一緒に練習、方言の良さを再認識した。

### 現場の様子

### こんな効果が生まれました

自分と講師との違いを意識して聞くことで、聞き手を引き込む技術に気づいた。子どもや市民の方に、より質の高いおはなし会を提供する意欲と向上心が芽生えた。

方言の響きが参加者の心を解き放ち、初対面でも親しみがわく温かな交流を促した。声による言葉の力を再認識し、自然体で楽しめる場となった。「つぼどん」のわらべうたも一緒に歌った。方言を通じて地元への愛着が生まれ、豊かな文化を次世代へ繋いでいきたいという地域活動への主体的な想いが強まった。

### こんな課題がありました

【会場の隅々まで想いを届けるための音響調整】

会場の広さや参加人数に合わせて、マイクの音量や声の届き方をきめ細かに調整し、より心地よい音の環境を整える大切さを学んだ。

【一人ひとりの心に響く、繊細な発声とマイクの使い方】

言葉に込めた声の力がそのまま伝わるよう、事前に確認をする。マイクを通じた際の声の強弱を意識し、より伝わる音声表現を追求していくことが今後の目標。

### 今後に向けて

図書館や小中学校、子ども食堂などでの開催も視野に入れ、森三郎童話の語りや朗読を通して、次世代の郷土愛を育む機会を増やしたい。

ボイストレーニングなど、自己研鑽を重ねて表現力を養うとともに、より多くの方にこの活動を知っていただけるよう、広報の工夫にも取り組んでいきたい。

聞き手の心に響く語りや朗読の会を継続し、方言や言葉の温もりを通して、地域の人々が自然体で交流できる場を大切に守り続けたい。

箏、尺八、ギターとのコラボにも取り組みたい。

### 参加者の声

「いぶし銀の朗読に引き込まれ、心がとろけそうでした。間や表情の変化が素晴らしく、民話の舞台へ足を運びたくなるほどです。ただの朗読ではない、先生の技量に圧倒され、一瞬でファンになりました」

「標準語とは違う温かな響きに心が解き放たれました。方言だと初対面でもぐっと距離が縮まるから不思議です。地域や世代による違いも興味深く、言葉の持つ本来の温もりを再発見できました」

「文字に残しにくい方言だからこそ、語りが重要だと痛感しました。自分たちの朗読会にもこの技術を活かし、より質の高いおはなし会を届けたいです。この文化を次世代へ繋ぐ大切さを再確認しました」

### 主催団体の声

「やってよかった」という手応えとともに、参加者の朗読スキルへの関心が高まったことを実感します。講師の朗読に、皆、まるでその場にいるかのようにお話の世界へ入り込みました。登場人物に共感したのも、適確な感情表現だからこそと思います。これをもとに研鑽を重ね、聞く人を楽しんでもらえる語りや朗読の会を継続していきたいと思えます。

### 取材を終えて…まちコの感想

- 朗読が方言の温もりを鮮やかに引き出し、言葉の響きに参加者の心が解き放たれる姿が印象的でした。郷土愛を培い、この文化を次世代へ繋ぐ大切さを再確認する、温かな希望に満ちたひと時となりました。（加藤陽介）
- 朗読が始まると、それまでまとっていた雰囲気と全く異なり、語り手の中で何人も生み出されていく姿が印象的でした。方言も含め、お話と一緒に温かさ、世代を超えて受け継がれてほしいと思いました。（上村礼子）

ご感想や「参加したよ」等は  
こちらから▼

